

## 景気ウォッチャー調査のキーワードからみた直近の景況感について

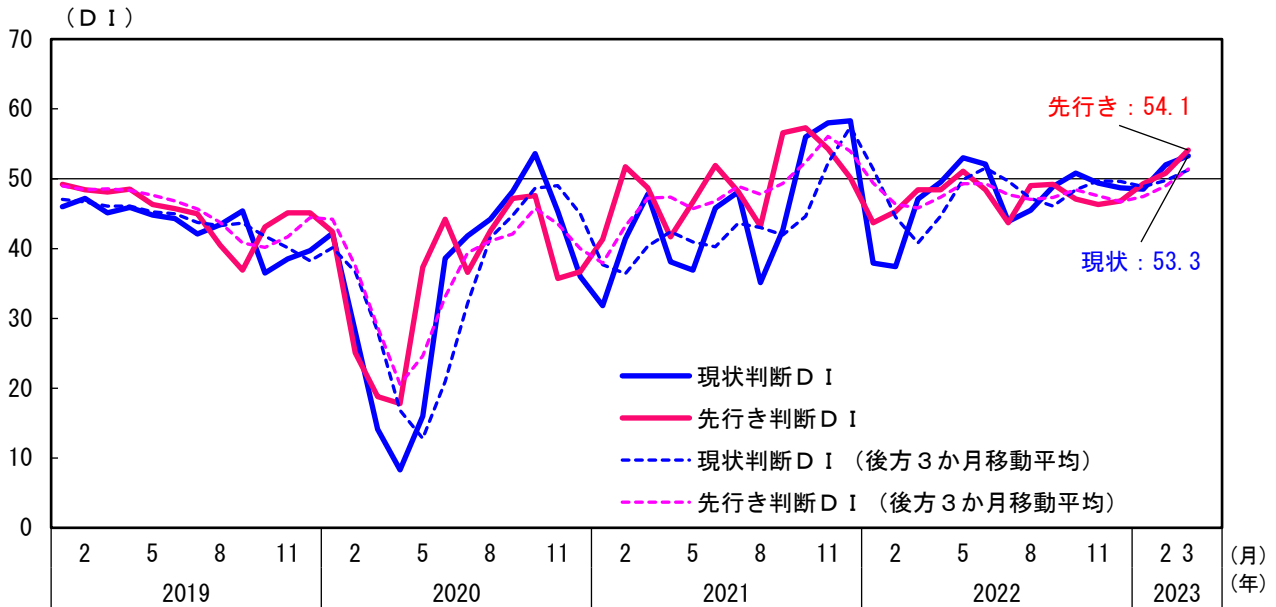
## &lt;ポイント&gt;

1. 内閣府「景気ウォッチャー調査」は、全国 2050 人の景気ウォッチャーから、地域の景況について、「良くなっている」から「悪くなっている」まで5段階の「判断」と、その判断理由について「コメント」を聴取している。このような二つの次元からなる調査設計により、①5段階の「判断」に基づく景況感指数（D I）を算出し、各月の景況感を定量的に把握できることに加え、②各回答者のコメントに現れた特徴的な単語（以下、「キーワード」という）を、その回答者の景況感D Iを対応させ、全体を通覧することにより、景況感を左右する要因を把握できることが特長となっている。以下では、後者のアプローチを中心に、直近の景況感について分析する。
2. 2023年3月の結果では、「現状判断D I」（3か月前と比較しての景気の実況に対する判断D I）が53.3（前月比+1.3ポイント）となり2か月連続の上昇、先行き判断D I（2～3か月先の景気の先行きに対する判断D I）が54.1（前月比+3.3ポイント）となった。ともに50を上回る水準になるなど、基調として景況感が改善している姿となった【図1】。こうした全体のD Iとは別に、各回答者のコメントに現れた特定の単語（キーワード）に着目し、その単語を用いた回答者グループのみでD Iを算出する（コメントD I）。これらの対照から、3月に関しては、以下のようなキーワードが示す要因が、景況感を左右する姿が浮かび上がっている。
3. まず、「マスク」である。現状判断に関するコメントにこのキーワード<sup>1</sup>を用いた回答者数（コメント数）は前月から増加している（2月調査：13件→3月調査：83件）。また、コメントD Iが69.0となっており、全回答者のD Iの53.3に対して大幅に高くなっている。したがって、「マスク」が示す要因が、全体のD Iの押し上げに寄与していたことが分かる【図2】。こうした背景には、3月13日からマスクの着用が任意となる中、週末の雨は多かったものの、平年より温暖な気候かつ桜の開花時期が早かったことで【図3、4】、外出への意欲が高まり、昼間・夜間の人流回復が進んだことが影響したと考えられる【図5】。景気ウォッチャーのコメントをみても、人出の増加や花見等のイベントや行事（卒業式等に関連した祝いの会食）の開催による関連商品の売上の増加といった「コト消費」に言及するコメントが多くみられた【図6】。
4. また、「インバウンド」「旅行」「観光」も3月のキーワードである。コメントD Iは、前月同様に高水準で推移しており【図7】、全体のD Iの改善に引き続き寄与している。3月からは国際クルーズ船の運航も再開しており【図8】、これまで都市部が先行していたインバウンドの回復も、徐々に地方圏まで波及してきていることがうかがえる。
5. こうした要因による景況感の押し上げの一方、物価上昇による景況感の押し下げは継続している。3月調査において、「価」または「値上」というキーワードを含むコメント数は359件（全体の29.4%）、コメントD Iも45.8と全体のD Iを下回っている。したがって、物価上昇は景況感の押し下げに寄与している。具体的なコメント内容をもみても、百貨店や家電量販店等で物価高による来客数の減少に言及するコメントが多く見られた【図9】。しかしながら、「価」または「値上」を含むコメント数・D Iを時系列でみると【図10】、コメント数は低下傾向、D Iは改善傾向にあり、景気ウォッチャーのコメントからは警戒感が若干和らいできている様子もうかがえる。
6. このように、直近の景況感については、物価上昇の影響による押し下げがやや緩和する中で、マスク着用ルールの変更やイベント開催等による押し上げの動きが強まり、全体のD Iが改善する構図となっている。先行き判断D Iについても同様の構図となっており、物価上昇に対する懸念は継続しているものの、GWに向け、旅行需要やインバウンドへの期待感が高まっている【図11】。
7. また、先行きでは「賃上」を含むコメント数が1月と比較すると増加、D Iも改善しており【図12】、前向きな文脈で使用される頻度も増えている。ただし、「地方」や「中小」といったキーワ

<sup>1</sup> 「マスク」を含むコメントの例としては「マスク着用が自主判断となったことで、消費者のムードが明るくなっている。移動もしやすくなっていることで、景気が良い方向に進みつつある。（北海道＝高級レストラン、現状）」などが挙げられる。

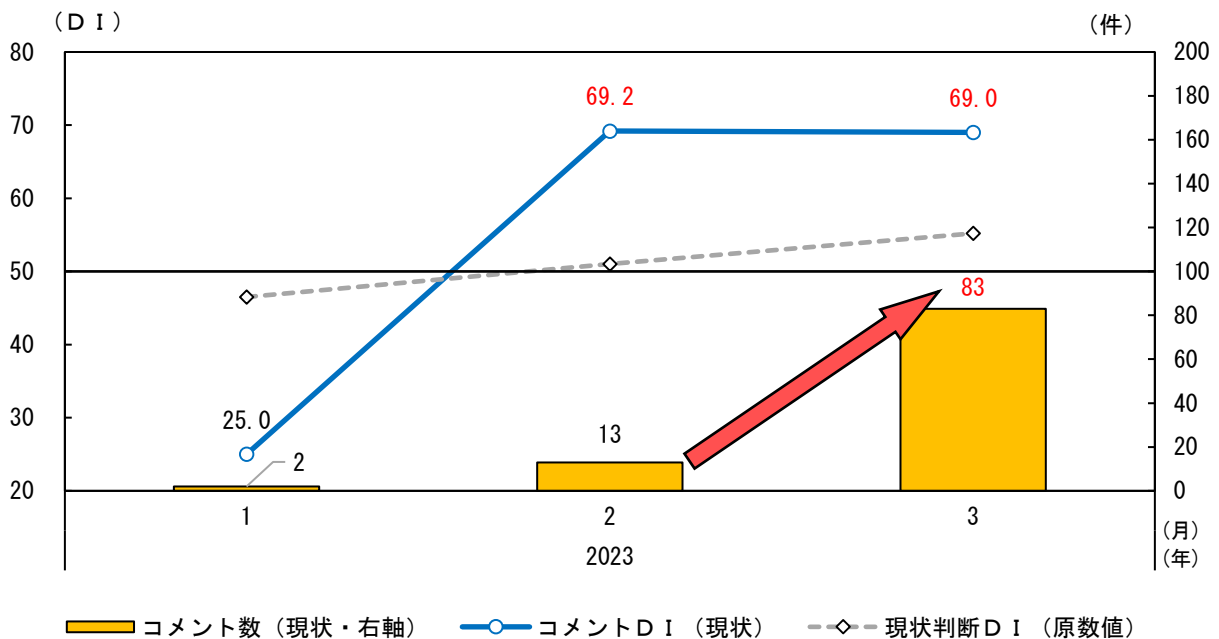
ードを伴った場合にはマイナス要因として用いられる傾向もみられる。景況感の改善が継続するためには、物価上昇による下押しを克服することが必要であり、賃上げの拡がりが必要になってくる。こうした視点も含め、引き続き景気ウォッチャーのコメント内容に注目していきたい。

【図1】D Iの推移（2019年以降）



（備考）内閣府「景気ウォッチャー調査」（2023年3月調査、調査期間：3月25日～31日）を基に作成。季節調整値。

【図2】「マスク」に言及したコメント（現状）



（備考）コメント数およびコメントD Iは「マスク」を含むものを集計したもの。



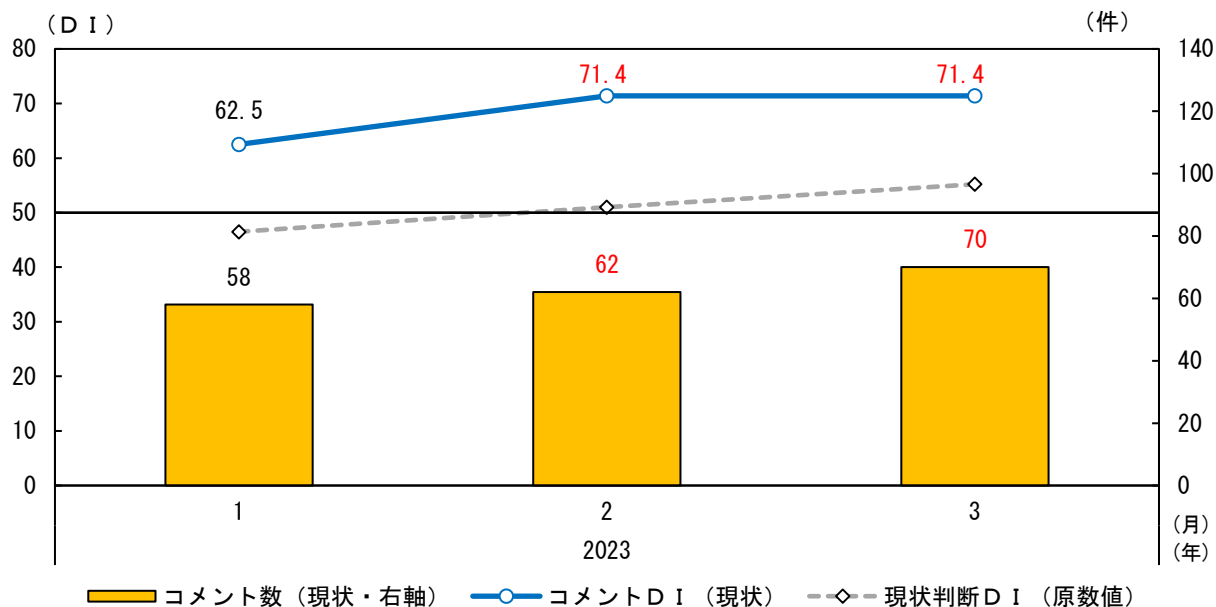
【図6】人出関連コメント

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

現状判断	分野	判断	コメント
	家計動向関連	○	・マスクの着用が個人の判断に委ねられるようになるなど、新型コロナウイルス感染症に関する行動規制が緩やかになったこと、また、合格、卒業、就職、転勤等の祝いの会食や少人数での飲み会が増加してきたことなどから、客単価や売上が3か月前の12月に匹敵する勢いとなっている（中国＝一般レストラン）。
		○	・新型コロナウイルス感染症も大分落ち着いて、やや消費が上向いている。花見シーズンで天候も良く、冷たい物、アイスコーヒー、ビール等が売れている（甲信越＝コンビニ）。
		○	コロナ禍前と比較してタクシー稼働も復調の兆しがみられるようである。空港には外国人観光客が大分増えている。都心では高速を使って帰宅する夜間遠距離客も増えており、景気は良い（南関東＝タクシー運転手）。
	企業動向関連	◎	・3月に価格改定に踏み切ったが販売量は落ちていない。通販は価格改定の影響を受けて受注が減少したものの、飲食及び物販は特に週末のイベント開催で人流が活発化したことにより好調に推移している（東北＝食料品製造業）。
雇用動向関連	□	・観光客を目にする機会が増えている。それに伴って、飲食業や小売店、清掃、ビルメンテナンスなどの観光関連業種の求人数が増えている。コロナ禍を脱して、経済活動が着実に動き出している（北海道＝求人情報誌製作会社）。	

（備考）内閣府「景気ウォッチャー調査」（2023年3月調査、調査期間：3月25日～31日）を基に作成。

【図7】「インバウンド」に言及したコメント（現状）



（備考）コメント数およびコメントDIは「外国人」、「インバウンド」、「入国」のいずれかを含むものを集計したもの。

【図8】主要港へのクルーズ船の寄港再開状況

港名	寄港日	船	定員
神戸	3月8日	ダイヤモンド・プリンセス	2,706人
石垣	3月8日	ウエステルダム	1,964人
那覇	3月9日	ウエステルダム	1,964人
鹿児島	3月9日	セブンシーズ・エクスプローラー	732人
横浜	3月10日	ダイヤモンド・プリンセス	2,706人
長崎	3月16日	オイローパ2	500人
博多	3月30日	ボレアリス	1,360人
宮古島平良	4月8日	スターブリーズ	312人

(備考) 国土交通省「外国船社及び日本船社が運航するクルーズ船の我が国港湾への寄港回」の2019年上位10社のうち外国クルーズ船が運行再開している港のみを抽出し、各港ホームページより作成。

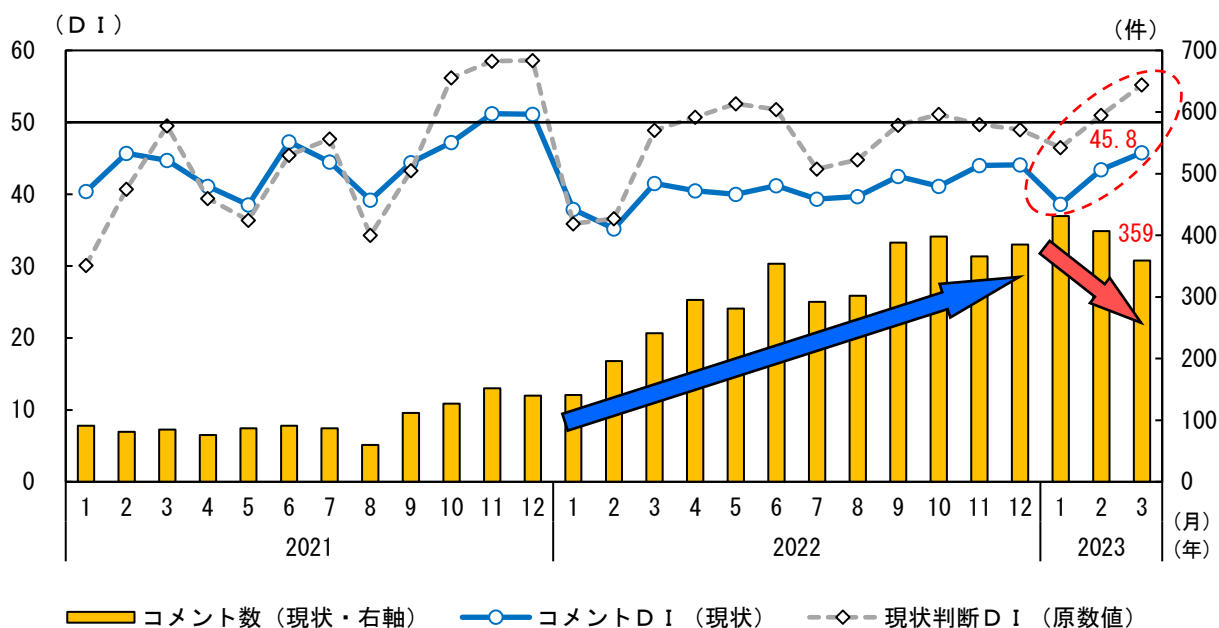
【図9】物価上昇に関するコメント

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

現状判断	分野	判断	コメント
	家計 動向 関連	▲	・マスク着用ルールの緩和というプラス要因はあるものの、それ以上に物価高の影響で来客数の伸びが鈍化している。特に中間層以下の客で影響が大きくなっている（北海道＝百貨店）。
		▲	・新生活や引っ越しでの新生活セットの販売量が想定より少なく、売れ筋も一番安い価格帯に偏っている。加えて、来客数も少なく、前年と比べて落ち込みが顕著になっている（南関東＝家電量販店）。
		▲	・電気料金等が家計を圧迫しており、生鮮食品を始め、嗜好品など買い控えの動きが鮮明になっている。買上点数の減少は顕著となっており、商品価格の値上げによる出費上昇分を、購買品数を減らすことで抑えている（九州＝スーパー）。
企業 動向 関連	▲	・材料の価格高騰がようやく収まり、販売価格の改定が完了したが、住宅市場の落ち込みは回復せず、受注が前年比よりも落ち込み傾向にある。加えて電力料金のアップが利益を圧迫している（四国＝木材木製品製造業）。	

(備考) 内閣府「景気ウォッチャー調査」(2023年3月調査、調査期間：3月25日～31日)を基に作成。

【図 10】「価」または「値上」と言及したコメントの推移



(備考) コメント数およびコメントDIは「価」または「値上」を含むものを集計したもの。

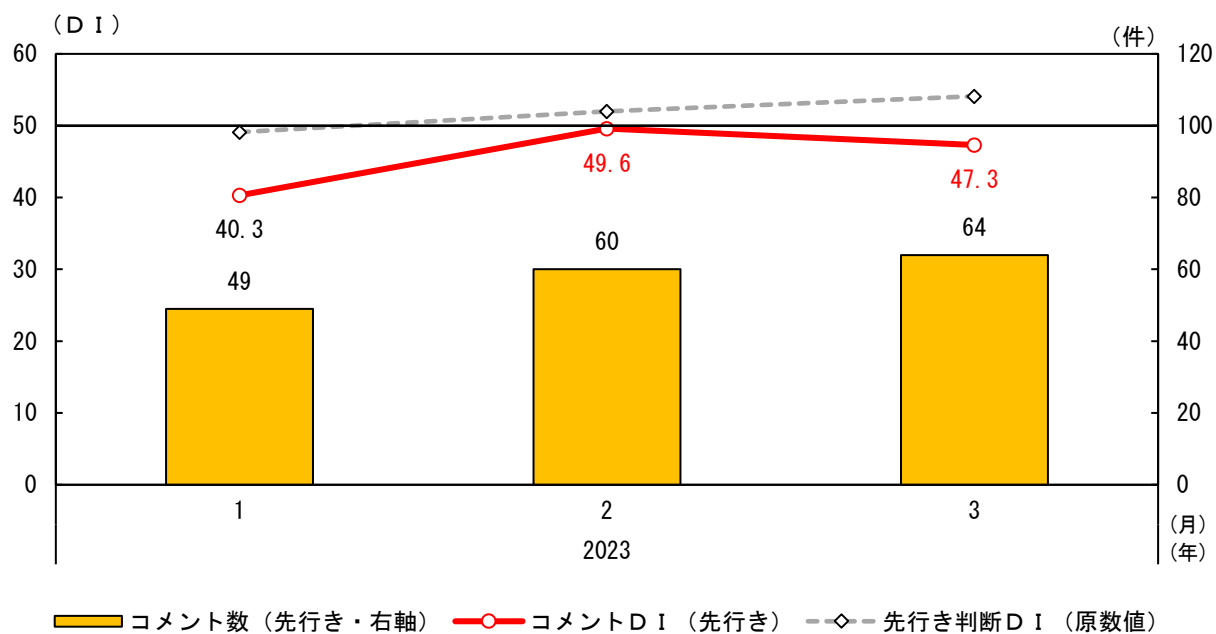
【図 11】GWや旅行需要、インバウンド等に期待するコメント

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野	判断	コメント
先行き判断	○	・新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類へ移行することにより状況は更に好転するとみている。ゴールデンウィークに予定されている祭りも今年は久しぶりに規制のない開催になるため、国内外から多くの観光客が訪れることを期待している（東北＝一般小売店[酒]）。
		・マスク着用ルールの変更や新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行により、行動制限から解放され旅行に行きやすくなり、全国旅行支援が続く間の宿泊需要は続くと考え（北陸＝都市型ホテル）。
	○	・マスク着用ルールが見直され、声出し応援が解禁になり、エンタメ業界などで夏のイベントが前年より多くなる（南関東＝広告代理店）。
	○	・エネルギー価格の上昇による生産活動への影響が懸念されるものの、求人は、建設業、製造業、宿泊、飲食業を中心に増加傾向にあり、コロナ禍前の水準に戻る兆しがある（甲信越＝職業安定所）。

(備考) 内閣府「景気ウォッチャー調査」(2023年3月調査、調査期間：3月25日～31日)を基に作成。

【図 12】「賃上」に言及したコメント（先行き）



(備考) コメント数およびコメントD Iは「賃上」を含むものを集計したもの。

担当：内閣府 政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（地域担当）付  
 小林 宏輔 ・ 萩原 峻徳 ・ 我謝 志帆（直通 03-6257-1577）  
 本レポートの内容や意見は執筆者個人のものであり、必ずしも内閣府の見解を示すものではない。